

令和7年度八尾市産業振興会議 第3回本体会議 議事録	
日時	令和8年2月9日（月） 15時～17時
場所	八尾商工会議所会館 3階 セミナールーム・多目的室
出席者	<p><委員 11名></p> <p>山縣座長、木下副座長、岡田千津代委員、樫本委員、小林委員、今岡委員、中谷委員、山田委員、美馬委員、三宅委員、松井委員</p> <p><事務局 7名></p> <p>岩井部長、浅井次長、後藤課長、亀村参事、米田参事、山田課長補佐、椋本、運営支援事業者 長澤氏</p>
<p>—事務局による司会で次第に沿って進行—</p> <p>開会前に事務局より直近の関連イベント・セミナーの案内</p> <p>2/10：ものづくりカレッジ「ウェルビーイングにつながる環境経営」 2/14：イノベーションプラン発表会 2/18：ものづくりカレッジ「小売・サービス業のための社内システム導入入門」 2/23：第5回中河内シンポジウム 3/4：産学連携に関するセミナー 3/23：令和8年度 補助金等説明会</p> <p>1. 開会</p> <p>事務局より、吉田委員、岡田賢晃委員、杉山委員、乾委員、北本委員、佐原委員、寺西委員、佐藤委員の欠席を報告。併せて、全委員19名のうち11名の委員の出席となり、八尾市産業振興会議規則第3条に規定する過半数の委員の出席により、本日の会議が成立していることを報告。</p> <p>— 魅力創造部長あいさつ —</p> <p>2. 議事</p> <p>(山縣座長による議事進行)</p> <p>(1) チェックイン</p>	

グラフィックファシリテーターの長澤氏より、チェックインの方法について説明。

(2) 提言書及び提言書報告会について

山縣座長より提言書概要版に沿って提言書の構成、提言の3つの柱について説明。

(構成)

- 背景：人口減少、財政状況、万博を巡る文脈 等
- 理論編（位置づけ）：説明可能性を担保するための概念整理
 - アクターネットワーク理論（人だけでなく「モノ／仕組み」も含め、働きを發揮させる視点）
 - サービス・ドミナント・ロジック（価値は「働き（サービス）」の活用から生まれる）
 - アントレプレナーシップ（起業に限らず、資源を組織化し価値を継続創出する姿勢）
- 事例編：万博関連での共創の考え方、学校環境改善プロジェクト、出会うプロジェクト、ジュニエコ等の取組を記載
- 考察：地域を「生きたネットワークとしての社会空間」と捉え、中小企業が地域に埋め込まれる存在である点、利己と利他が融合し得る点、市の“媒介（ハブ）機能”の重要性等

(提言の「3つの柱」)

1. オープンにするための支援（やりたいが出来ない事業者の背中を押す）
2. 様々な資源を引きつけるための発信・支援（人・金・情報の流入、住みたくなる要素も含む）
3. 共創して競争するための施策・支援（従来つながらなかった主体同士の連携で課題解決・価値創出）

提言の実現に向けた市の取り組みについて、事務局より資料に沿って説明。

(3) ワーク

山縣座長より、本日のワークでは、次期の産業振興会議は、「八尾市総合計画（10年スパン）」の検討時期にあたるため、総合計画策定に向けたアイデア出しのため、この2、3年の間に起きた変化について分野ごとに意見を出すことを説明。

① AI・デジタル化の進展

委員：AIができた…慣れていかないと。

委員：この2年でAIが一番大きい。仕事で完全に使えるレベルになってきて、何年もかけた技術が一瞬で量産される。人がやることが大きく変わる兆候が明らか。

委員：でも AI でホームページとか素材作るのは便利になった。

委員：昔はモデル手配して撮影してたが、今は自社でできる。無料でもかなりできる。ChatGPT 等を使って、画像も一瞬で整えられる。

委員：iPhone で録ってそのまま文字起こし、イラスト付き、対談式もできる。何でもできる。

委員：AI ができることは何か。AI を使えるところは使えばいいが、見極めが難しい。

委員：便利なものは増えたが、反面リスクも増えている。

委員：使い方がわからないまま使うのが一番怖い。

委員：議事録を AI で整えてもらったら、誰の言葉かわからなくなる。会議自体必要なくなるのではと心配。

委員：プロセスが見えないのが怖い。なぜその答えが出たか分からないことがある。

委員：AI に頼りすぎると、誰が何をやったかプロセスが見えなくなる。そこが怖い。現実との違い、ブラックボックス化。

委員：AI により、人間がしている仕事がなくなっていくのは不思議だなと思う。

委員：選挙でも AI や SNS の影響が大きい。

② 情報環境・社会の変化

委員：SNS はどの分野？社会だいぶ変わりましたね。

委員：TikTok やインスタでは情報がめっちゃめっちゃ流れてくる。

委員：昔は自分で取りに行っていたが、今は勝手に入ってくる。

委員：専用のコンシェルジュのように関心のある情報ばかり入ってくる。

委員：先日の選挙では SNS で左右されていたが、今回は自分で情報を取ろうという動きもあった。

委員：SNS ではストーリーだけの人など、投稿を残したくない人が増えた。

委員：テレビの共通体験がなくなった。みんな YouTube で違うものを見ている。

委員：BeReal 流行っているが、何が楽しいのか分からない。

委員：ネットの詐欺が多くなった。若い人も巻き込まれている。

委員： 自然災害や感染症も増え、時代が戻っている感じもある。

委員： SNS で投げても見ない人が多い。どう集めるか。

③ 人手不足・賃金・産業

委員： 人手不足。コンビニも外国の人ばかり。

委員： 募集かけても人が来ない。75 歳でも採用することもある。

委員： AI で仕事が減っても、介護など必要な仕事ほど人が来ない。

委員： ロボットで補えるのか心配。

委員： 人生百年時代だが、社会から“もういいですよ”と言われる時代にならないか。

委員： ベース産業がなくなると取り返しがつかない。技術継承は人対人。

委員： 八尾は“ものづくりのまち”は資産。

委員： ものづくりの技術を子どもに教える場を価値にできないか。

委員： 世界ではブルーカラーの給料が上がる流れがあるが、日本は難しい。

委員： 中小企業は価格転嫁できない。

委員： 補助金も零細企業は使えない。

委員： 賃上げ→物価上昇になるのか？手取りは上がっていない。

委員： 実質賃金が追いついてない。海外競争も厳しい。

④ 教育・次世代育成

委員： 学校の「開かれた学校」は双方向に変わってきている。

委員： 子どもが企画し、今まで出てこなかった子も前に出てくる。

委員： 外国にルーツのある子の発表で交流が広がった。

委員： AI は便利だが「心」はない。子どもには考える力や思いやりを。

委員： 教育現場は大変。親も含めて難易度が上がっている。

委員： 問いを作る経験が貴重。

委員：日本はコツコツは強いが発信が弱い。

委員：働きたい会社は文化や地域とのつながりが重要。

⑤ 行政の役割・地域の設計

委員：行政は情報を持っている。マッチングできるはず。

委員：行政の縦割りは昔よりマシになった。

委員：物理的にコミュニケーションを取れる場づくりが大事。

委員：声を上げない企業を掘り起こす必要。

委員：商工会議所以外にも届く仕組みが必要。

委員：市内循環を強くすれば人口減でも粘れる。

委員：御用聞き機能・ハブ機能を強化すべき。

委員：地域は昔は金だけで回っていなかった。

委員：地域活動はCSV（地域も自社も良くなる）として捉えるべき。

委員：「地域貢献」ではなく、やりたいになる言葉が必要。

委員：共感の力は大きい。企業価値は売上利益だけでは測れない。

委員：点を線に、線を面にするのが行政や団体の仕事。

委員：定量化のヒントはある。エビデンスを作るべき。

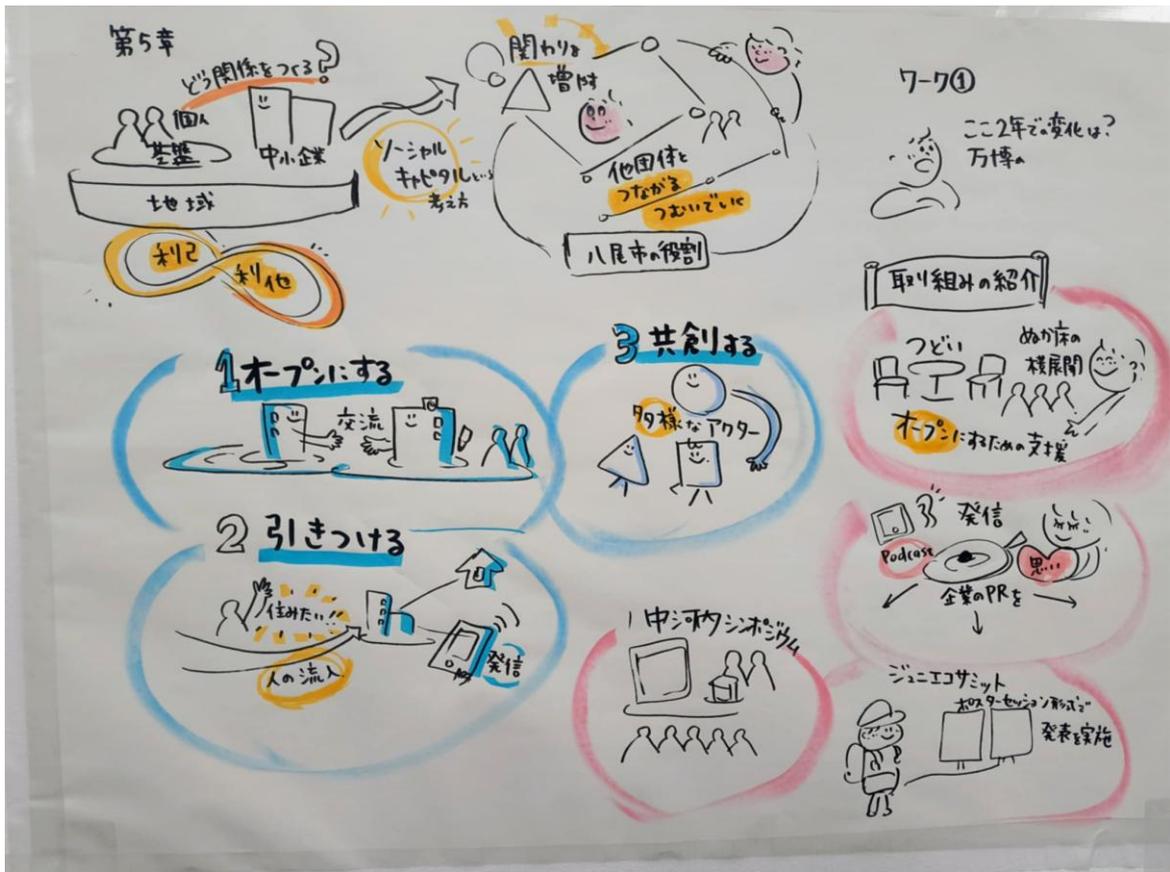
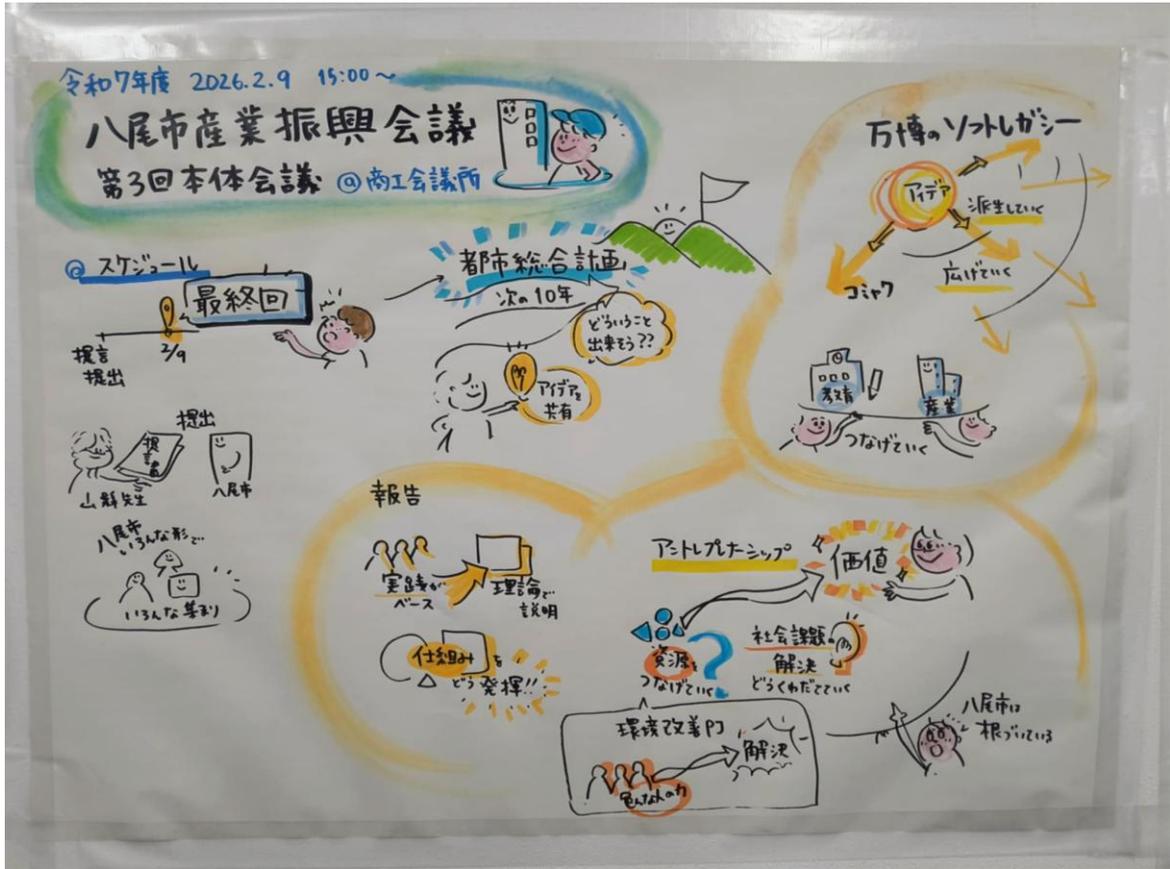
委員：企業×教育×団体×行政の連動を設計し、継続の仕組みを作る。

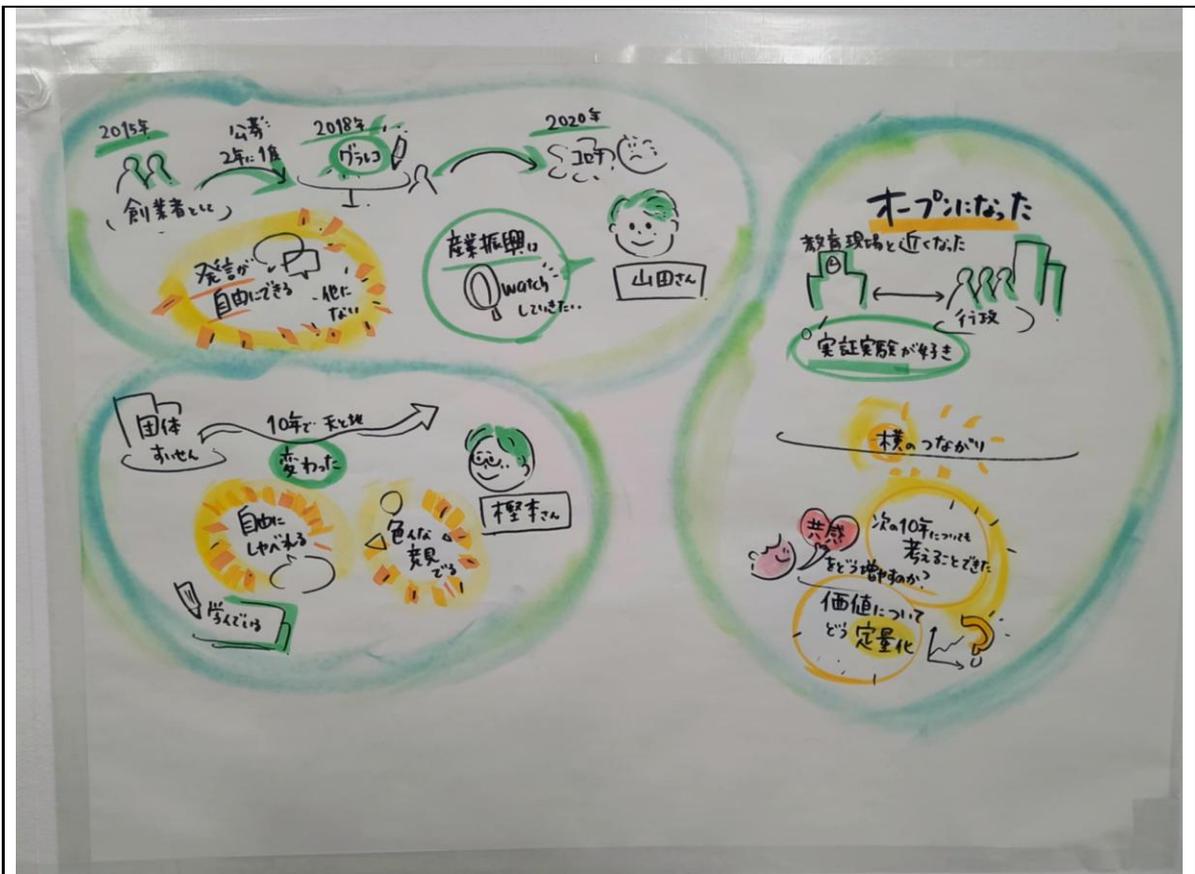
— 産業政策課長あいさつ —

3. 閉会

以上

<参考：当日のグラフィックレコーディング>





<参考：当日のワーク>



